

2018年度  
田川地区  
人権啓発冊子

# しあわせは みんなのねがい



「戦争」をとおして、「人権」の大切さを考えてみよう

戦争と人権



2018年度  
第38集

田川地区社会同和教育担当者会

# これって、ホントの話なの？

ある国の内戦の様子を、テレビのニュースが伝えていました。  
 子どもたちは、映画を見るように爆撃機やミサイルが飛び交う  
 画面を眺めています。



わあー！ジェット機が  
カッコいい！！

また戦争が  
始まったようだな。

子どもたちがかわいそう。  
見てられないわ。

日本じゃなくて、  
よかったね～。



これこれ！  
戦争は他人事じゃないぞ！！  
日本も戦争をしたことがあるんじゃ。

ほん  
**本じい**  
いろいろなことを  
知っているおじいさん

## もくじ

これって、ホントの話なの？ ……	1
戦争って、いのちだけを奪うの？ …	3
いのちと生きる権利 戦争の実話から学ぶ「人権」 ……	5
地元田川で起こった出来事 ……	9
戦後の人権確立への取り組み ……	11
「戦争の世紀」から「人権の世紀」へ 平和な世界をめざして ……	15
研修報告 ……	17

# 戦争って、いのちだけを奪うの？

## 約80年前、日本でも こんな戦争がありました

日本が戦った最後の戦争は、全世界で5000万人以上（兵士約1700万人、民間人約3400万人）の戦死者を出した第二次世界大戦です。

1939（昭和14）年にドイツがポーランドに侵攻したことから始まり、世界中に広がりました。日本も、1941（昭和16）年12月にハワイの真珠湾を攻撃したことで、アメリカとの戦争が始まりました。

激しい戦いの末、1945（昭和20）年5月にドイツが降伏し、8月に広島、長崎に原子爆弾が投下され、日本が降伏して第二次世界大戦は終わりました。日本はこの戦争を反省し、二度と戦争を起こさないことを世界に誓い、平和主義を掲げる国になりました。

## 戦争は最大の人権侵害

戦争が長引くにつれて食料や燃料、衣料などが不足し、人々は厳しい生活を強いられました。また、戦争に反対するような言論や行動が厳しく取り締まられました。

平和に、健やかに、豊かに暮らしたい。考えていることを自由に表現したい…そんな当たり前の願いが否定されるのが戦争です。何よりも、人権の大前提である「いのちそのもの」を危険にさらし、「生きる権利」を奪う戦争は、最大の人権侵害といえます。

たとえば

学校に行けない

食べるものがない

住む場所がない

言いたいことを  
言えない

働かされる

大変な思いをした人が  
たくさんいたんだね。

そうだったんだ！

いろいろな人権侵害が  
あったんだな。

知らなかったなあ。

# いのちと生きる権利

戦争の実話から学ぶ「人権」



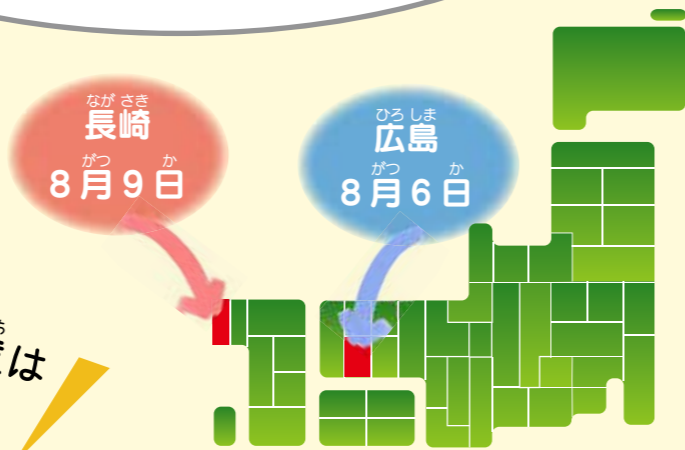
日本は世界で初めて原子爆弾の被害を受けた国なんじゃ。  
被爆地・広島での話をとおして、いのちや生きる権利について考えてみてほしい。

住んでいた人達は  
どうなったの？



原子爆弾が  
投下された日

1945（昭和20）年8月6日午前8時15分、アメリカ軍によって日本の広島市に原子爆弾が投下されました。世界で初めて核兵器が実戦使用された日であり、人類史上初の都市に対する核攻撃でした。これにより、当時の広島市の人口約35万人のうち、約14万人がその年の12月末までに亡くなりました。  
広島への原子爆弾投下から3日後の8月9日午前11時2分には、長崎市にも投下されました。当時の長崎市の人口は約24万人でしたが、約7万4000人が亡くなりました。



## 広島で被爆した ちづこさんの話

1945（昭和20）年、当時16歳のちづこさんは、父と母と3人の妹（中学生、6歳、3歳）と広島で暮らしていました。8月になってすぐ、空襲で家が被害にあう前にと、家の中で写真館の人に家族写真を撮ってもらいました。  
その数日後の8月6日の朝、ちづこさんは缶詰工場へ、中学生の妹は別の作業場へ行くため家をでました。そして8時15分、広島市の街に原子爆弾が落とされたのです。爆風でつぶれた工場からなんとか這い出たちづこさんは「家族が離れ離れになったときに集まろう」と話し合っていた、少し離れた場所に向かいました。また家族に会えることを信じて数日待ち続けたちづこさん。しかし、そこには誰も来ませんでした。家族を探しに広島市の街へ戻ると、そこに広がっていたのはがれきの山でした。家があった場所を掘り返し、顔も分からない真っ黒な遺体を見つけました。身につけていたわずかな物から、お父さんと6歳の妹だと分かりました。台所があった場所では、3歳の妹をかばうようにして亡くなっていたお母さんを見つけました。ピカッと光った瞬間、お母さんは妹をギュッと強く抱きしめたのでしょ。真っ黒なお母さんと妹の間には、洋服の切れ端が焦げずに少しだけ残っていたそうです。ちづこさんは「お母さんの着ていた服だ」と泣き崩れました。中学生の妹は行方不明のままで、いっしょに作業をしていた女子学生700人は、誰ひとり生き残ることができませんでした。終戦後、写真館の人がちづこさんに写真を渡しました。最後に撮った家族6人の穏やかな表情。みんなで出来上がりを楽しみにしていましたが、見ることはできたのは、ちづこさんだけでした。それ以来、ちづこさんが写真を撮ることはありませんでした。

（ちづこさんの子・岩田美穂さんのインタビューより／P.18 研修報告参照）



どうじゃったかな？  
突然、家族全員のいのちを奪われたちづこさんの悲しみや精神的なショックは、言葉にできないほど大きかったはず。ちづこさんは、いのちは奪われなかったが、平和に暮らすという権利を奪われたんじゃ。

そんなことがあったんだね。



被爆した人の中には、戦争が終わった後も偏見を恐れ、被爆したことを隠し続けた人もいたんじゃ。

知らなかったわ。



次は「沖縄戦」について考えてみよう。  
なぜ戦争が「最大の人権侵害」といわれるか、よく分かるはずじゃ。

## 「沖縄戦」とは

沖縄諸島に上陸したアメリカ軍とイギリス軍を主体とする連合軍と日本軍の間で行われた国内最大規模の地上戦。第二次世界大戦末期の1945（昭和20）年3月26日に始まり、地形が変わるほどの激しい空襲や艦砲射撃が行われたため、「鉄の暴風」ともいわれます。

3か月にわたった戦いの戦死者は約20万人にのぼり、子どもからお年寄りまで約9万4000人（当時の沖縄県民の4分の1）の一般住民も犠牲になりました。



生きる権利

はなしの話



## 沖縄戦の悲劇

# 「ガマ」での集団自決

「この世の地獄を集めた」とも表現される沖縄戦では、数多くの悲劇が起こりました。その一つが、沖縄で「ガマ」と呼ばれる自然洞窟での集団自決です。

アメリカ軍の攻撃が激しくなると、日本兵が一般住民に変装して攻撃することもあったため、アメリカ軍は一般住民も攻撃するようになりました。当時の日本では、「アメリカ兵は残忍で何をするか分からない」「捕まるくらいなら自決しろ」「国のために死ぬことが名誉なこと」と教えられていました。

逃げ場を失いガマに追い詰められた人たちは、自分の子どもや家族を刃物で刺したり、石などで殴ったり、毒を注射したりして仕方なく殺し、自決しました。なかには強制的に自決させられた人もいました。

沖縄戦の悲劇は、いのちを奪い、生きる権利を奪ったということじゃよ。



# 地元田川で 起こった出来事



ここからは、田川で起こったことを紹介しよう。

## 炭鉱を支えた労働者たち

日中戦争から第二次世界大戦にかけて、若者や働き手の多くが兵隊として出征したため、筑豊を含む日本全体が労働力不足に苦しみました。その対策として、政府は、1939（昭和14）年、当時の植民地だった朝鮮半島で労働者を募集し、1944（昭和19）年には、日本全土で実施していた「国民徴用令」による徴用を朝鮮半島でも開始しました。「国民徴用令」は、戦時の労働力確保のために国民を強制的に動員できる法律で、応じなければ罰せられました。田川地区の炭鉱も朝鮮半島から海を渡ってきた労働者に支えられていたのです。



戦争中は外国から労働者を連れてきていたんだね。



戦後には、こんな大事故も起きたんじゃ。

## 二又トンネル爆発事故

戦争の爪あと

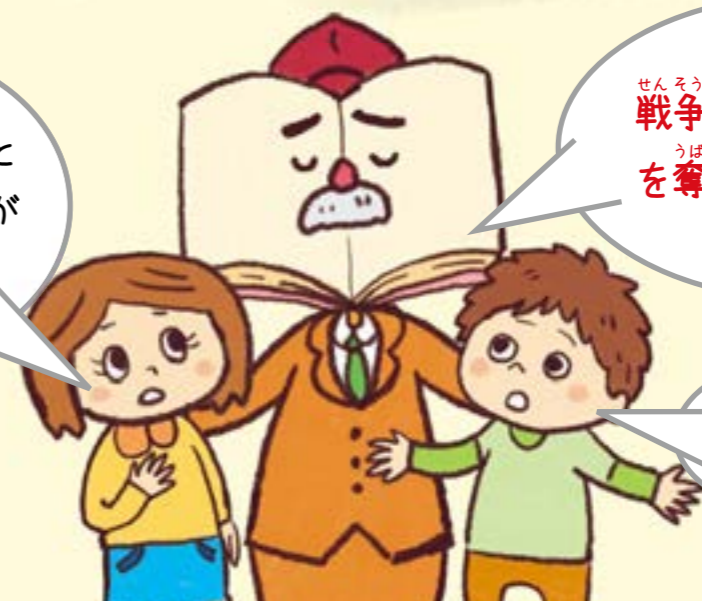
戦後まもない1945（昭和20）年11月12日午後5時15分、田川郡添田町落合二又にあったトンネルで大爆発が起きました。日本の旧陸軍がトンネルに隠していた約530トンの火薬をアメリカ軍が焼却処分しようとした際に起きた事故です。爆発によってトンネルがあった山が二つに裂け、死傷者は300人近くにのぼり、とくに爆心地から1キロ圏内は、岩石や土砂、不発弾などが落下し、家屋や山林、家畜なども大きな被害を受けました。

この事故は、被害の大きさから「三発目の『原爆』」ともいわれています。戦争による人権侵害は、戦争が終わった後も私たちの身近で起きていたのです。



私たちのふるさとも、こんなことがあったんだね。

戦争は人々から「人権」を奪っていたんじゃ。



この後どうなるのかな？

そして戦後、世界中で人権問題に対する取り組みが始まった

# 戦後の人権確立への取り組み



日本ではどんなふうに「人権確立」へ取り組んできたんじやろう。

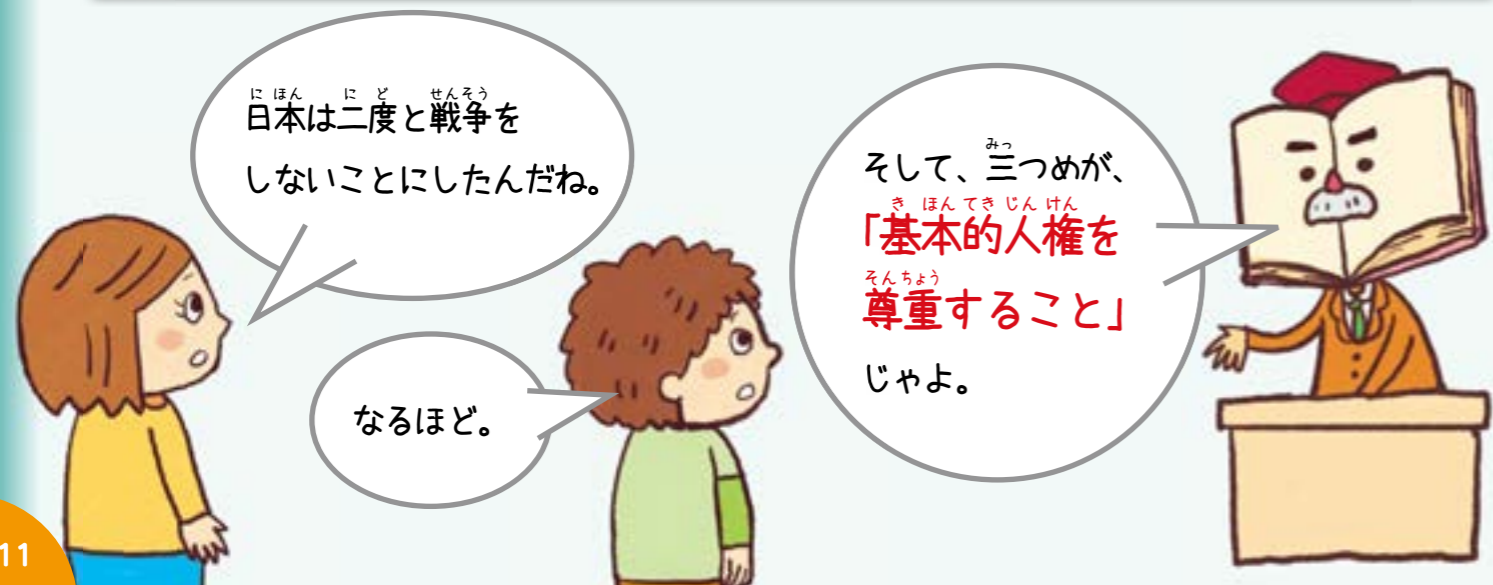
## 日本国憲法の成立

1945（昭和20）年8月15日に日本が無条件降伏すると、アメリカ軍を中心とする連合国軍が日本を占領し、政府に民主主義を推し進める政策を実行するよう指示します。

その一環として、新しい憲法「日本国憲法」が制定され、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」という3つの重要な原則が示されました。

**1 国民主権** 主権が国民にあること。戦前の憲法「大日本帝国憲法」で主権者とされていた天皇は「国の象徴」とされました。

**2 平和主義** 国際平和をめざし、国際紛争を解決するために武力を用いることを否定し、陸・海・空軍などの戦力を持つことを放棄しました。



## ③ 基本的人権の尊重とは？

「基本的人権」は、人間が人間らしく生活するために、だれもが生まれたときから持っている権利です。

いろいろな権利の中でも特に大切なものであり、日本国憲法でも「**侵すことのできない永久の権利**」（第11条）として保障されています。

基本的人権には、**平等権**（性別、人種、家柄などで差別されない権利）・**自由権**（自由に生きる権利）・**社会権**（豊かに生きる権利）・**参政権**（政治に参加する権利）などの権利があります。また、社会の進展に合わせて、「知る権利」や「環境権」「プライバシー権」などの新しい人権の考え方も生まれています。基本的人権とは、たとえば…



思ったことを自由に表現する



教育を受ける



自分が選んだ仕事をする



自分が選んだ宗教を信じる



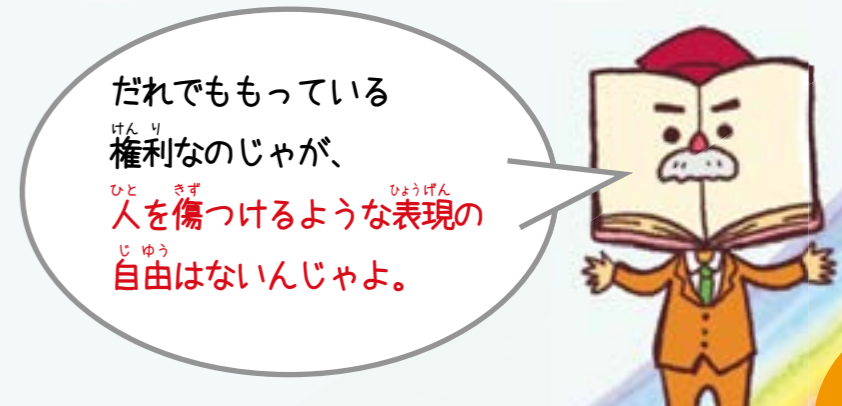
行きたい場所に行く



ほしいものを買う



自分が選んだ人と結婚する





# 世界人権宣言

世界中を戦争に巻き込んだ第二次世界大戦では、5000万人以上もの人が犠牲になりました。この反省から、1945（昭和20）年10月、二度と戦争を起こさないために国際連合が設立されました。

1948（昭和23）年12月10日、パリで開催された国際連合第3回総会で、**人権を侵すことが戦争につながるという考え方で「世界人権宣言」が採択されました。**1966（昭和41）年には、基本的人権を国際的に保護する条約「国際人権規約（社会権規約、自由権規約）」が採択されました。

また、1995（平成7）年から2004（平成16）年までの10年間は「人権教育のための国連10年」とされ、2005（平成17）年3月には、アナン事務総長（当時）によって、国連の全ての活動で人権の視点を強化する考えが提唱されるなど、国際規模で人権のためのさまざまな取り組みが進められています。

世界中で人権意識が向上したのに、いまでも戦争はなくなっていないじゃ。

どうして？

自分たちこそ正しいという一方的な考え方が対立を生み出し、争いを大きくしているじゃ。

民族同士や国と国のケンカじゃな。

いったいどうしたら戦争がなくなると思う？

う～ん、考え方が違っても、相手の立場を考えて、意見を伝え合えば、戦争は防げるのかな？

そうじゃなあ。みんなが仲良くできればいいのう。

## 核兵器廃絶へ

日本は、人類史上初めて原子爆弾が投下され、世界で唯一の被爆国となったことで、被爆地である広島・長崎を中心に、「核兵器のない世界」をめざすさまざまな取り組みを続けています。







「戦争の世紀」から「人権の世紀」へ



# 平和な世界をめざして

今年は「世界人権宣言」が採択されて70周年です。

「世界人権宣言」は、基本的人権の尊重の原則を明記し、

初めて国際的な人権保障の目標や基準を定めました。

しかし、この画期的な宣言が採択されて70年を迎え

る今も、さまざまな紛争や内戦が起こっています。

核やテロの脅威、貧困などによって今も安心して暮ら

せない人々がたくさんいます。

人権とは、すべての人々が生まれながらにもっている、

人間が人間らしく生きていく権利です。

世界各地で今も続く戦争は、人権も平和も私たちが常

に意識し、考え、守っていかなければ、あっという間に

失われてしまうものだと教えています。

日本では、実際に戦争を体験した人が少なくなってきた

ています。

戦争を過去のものとせず、そこから人権について学び、

私たちに何ができるのか、何をすべきかを考えていく

ことが大切ではないでしょうか。





私たち田川地区社会同和教育担当者会は、担当者一人ひとりの人権意識の向上を図るため、さまざまな研修に取り組んでいます。ここでは、その内容の一部を報告します。

## 福山市人権平和資料館

広島県福山市

この資料館は、人権・平和資料を展示し、同和問題解決をはじめとする人権の確立と、恒久平和の実現を考える資料館となっています。

1階では、福山空襲の実態と戦時下のくらしを、2階では部落の歴史と解放のあゆみを常設展示しています。

また、企画展示室では年間6回ほど展示を行っており、訪れた時には、日本軍の毒ガス兵器製造所があった大久野島についてのパネル展が開催されていました。



## 袋町小学校平和資料館

広島県広島市

この資料館は、1999 (平成 11) 年に「伝言板」が見つかったことで全国に知られるようになりました。

原爆により校舎の中が焼け、ススで黒くなった壁を黒板代わりに使っていました。そこには、教え子や家族を探すため、チョークで伝言を書き残していました。この時まで見つからなかったのは、1946 (昭和 21) 年 6 月に壁が塗り直された際に「伝言」がその下に隠れたからでした。



## 広島平和記念公園・広島平和記念資料館

広島県広島市

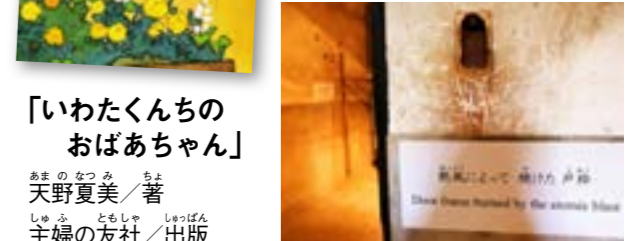
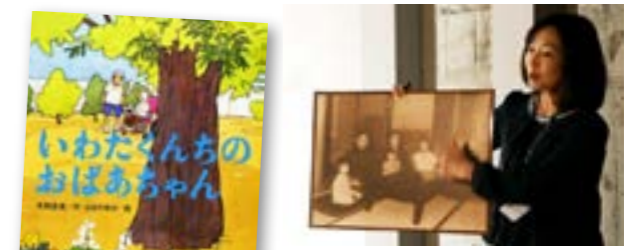
広島平和記念公園にある広島平和記念資料館や核兵器廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルとして世界遺産に登録されている原爆ドームなどさまざまな施設を見学しました。案内・解説していただいたピースボランティアから当時の被害の悲惨さとその被害から復興した広島への歩み、平和への取り組みをお聞きしました。参加者はこのような悲惨な戦争を再び起こしてはならないとの思いを新たにしました。



## 本川小学校平和資料館

広島県広島市

この資料館は、爆心地から最も近い410メートルの位置にある小学校の敷地内にあります。鉄筋コンクリート造であったため爆風に耐え、約30年前までは本校舎として使用されていました。現在では建物の一部を残し、平和資料館として開放しています。この卒業生であり、絵本「いわたくんちのおばあちゃん」のモデルになったちづこさん (P.6) の子・岩田美穂さんが館内のボランティアガイドを務めています。



「いわたくんちのおばあちゃん」  
あまのなつみ 著  
天野夏美 / 著  
主婦の友社 / 出版

## 田川地区人権センター紹介

田川地区人権センターは、赤村、糸田町、大任町、川崎町、香春町、添田町、田川市、福智町の8市町村をもって構成されています。

主な仕事は、同和問題をはじめとする様々な人権問題を解決するための調査・研究・啓発の推進及び、関係機関との連絡調整などです。そのために次のような活動を行っています。

### ●啓 発

- 諸団体・企業などの啓発推進のための研修会・フィールドワーク・相談活動
- 啓発資料・啓発用ビデオテープ・DVDなどの貸出し業務
- その他、人権・同和教育・人権問題に関する諸活動

### ●資料情報の収集・提供

- 各市町村の啓発関係資料の収集・保管活用
- 部落史・解放運動史・人権・同和教育運動史をはじめとする、様々な人権問題などの研究・資料の収集・整理・保管活用

### ●調査・研究

- 啓発活動をより拡充・発展させるために、各市町村、行政関係者と連携して人権問題に関する意識調査や啓発活動のあり方についての調査・研究
- 関係機関などへの意見具申、資料の提供など、差別解消に向けての活動

### ●指導者の育成

- 啓発活動の指導者育成・研修・交流

人権問題についてのお問い合わせ

☎0947-28-5230

〒822-1101 田川郡福智町赤池970-4 福智町人権のまちづくり館内 田川地区人権センター  
啓発学習用の各種ビデオテープ・DVD や資料の貸出しを行っています。



## 2018年度 田川地区人権啓発冊子 しあわせはみんなのねがい 第38集

編集・発行／田川地区社会同和教育担当者会  
印刷／(有)川崎印刷

### 発 行 者

赤 村・赤村教育委員会 香春町・香春町教育委員会  
糸田町・糸田町教育委員会 添田町・添田町教育委員会  
大任町・大任町教育委員会 田川市・田川市教育委員会  
川崎町・川崎町教育委員会 福智町・福智町教育委員会